

## 青島・山東省

## 高機能化3G規格、青島など沿海部3都市で技術試験＝中国移動

13日付の中国紙・第一財經日報（B3面）によると、中国通信キャリア大手の中国移動は、第3世代の移動体通信規格を高機能化した「TD-LTE（ロング・ターム・エボリューション）」の技術試験を、青島（山東省）、アモイ（福建省）、珠海（広東省）の沿海部3都市で実施する。同社関係者が12日明らかにした。各都市に100カ所の基地局を整備し、下半期の試験開始を目指す。

TD-LTE規格は、中国独自の3G規格「TD-CDMA」の機能を強化。中国移動は、5月から10月まで開催される上海万博の会場で、同規格に基づくサービスを提供する方針だ。

同規格の関連設備は、華為や中興通迅など国内通信機器大手が提供するほか、ノキアやエリクソンなど海外大手も開発に着手しているという。（時事）



## (94) 電子書籍のコンテンツ戦略

野村綜研(上海)咨询有限公司

米アップル社が4月3日、多機能型携帯端末「iPad（アイパッド）」の発売をスタートした。同社の電子書籍コンテンツサービス「iBook（アイブック）ストア」も同時に登場し、iPadのセールスポイントとしてアピールしている。アマゾンの「Kindle（キンドル）」に続くiPadの発売で、電子書籍市場が再び注目を集めている。

中国の電子書籍産業はまだ立ち上がり時期であるが、迅速に成長している。調査会社DisplaySearchによると、中国電子書籍端末の販売量は2009年の80万台から10年には300万台にまで増え、グローバルシェアの20%を占めているという。

## ◇新聞・出版も取り込み図る

電子書籍市場においては、端末の品質も重要だが、競合相手との勝敗を分ける鍵はやはりコンテンツだとみられる。このビジネスチャンスを狙って、オンラインゲーム事業会社の「盛大」は3月にこの市場に進出すると発表した。盛大のセールスポイントは端末ではなく、膨大なコンテンツの準備である。同社の子会社「盛大文学」は総文字数で500億字に達するオンライン文学作品の著作権を保有し、市場シェアの90%を占め、数十万人の作者が毎日新しい作品を書いている。それだけでなく、盛大は積極的に各種のコンテンツプロバイダー（CP）と提携を進めており、コンテンツの価格は提携先のCPが決定し、コンテンツ提供している。

盛大だけでなく、端末メーカーもコンテンツに注力している。電子書籍端末の最大手「漢王」は盛大と提携してオンライン文学作品を販売するほか、新聞・出版社とも積極的に接触している。「環球時報」「京華時報」などの新聞が漢王で既に読める。盛大と同じく、コンテンツの価格はすべて提携先に決めさせ、漢王は先方と2対8の割合で利益を分配している。

## ◇ルールは未整備

しかし、電子書籍のコンテンツは相変わらずまだ少ない状況にある。オンライン文学作品以外、ほとんどは著作権のない名著、歴史、哲学、礼儀類の書籍で、電子書籍ではベストセラー作品を読めない。

原因としては、業界の関連規制が現段階ではまだ成熟しておらず、ネット出版の課金も標準がない。出版社、作者と電子書籍メーカーの間での利益分配についても明確ではない。そして違法コピーなどの問題も存在しているため、大量のコンテンツを持っている出版社は電子プラットフォームより紙の本として発行したい。産業の成長を促進するためには、著作権制度と合理的な利益分配制度の完備が不可欠である。

Kindleの成功要因は「端末＋コンテンツ」という販売モデルである。利用者はアマゾンの豊富なコンテンツと便利なサービスを利用でき、多くの人気コンテンツを読むことができる。図書産業が電子プラットフォームに移行するトレンドは今後進むであろう。コンテンツの充実と関連制度が整えば、流通コストが掛からず低コストで、便利に、多くの情報にアクセスできる、電子書籍市場は将来成長すると見込まれる。（コンサルタント 周睿）